

# 令和5年度 食育推進状況調査結果報告

## 1 調査の目的

- ・ 食育推進ネットワーク加入施設で実施された食育活動について把握するとともに、今後の食育活動の方針を確認する資料とする

## 2 調査の内容

### (1) 調査票

別紙2

### (2) 対象

熊本市こどもの食育推進ネットワーク加入施設 314 か所

保育所 93 か所、幼稚園 24 か所、認定こども園 95 か所、地域型保育事業55 か所、認可外保育施設27 か所、子育て支援センター20か所

### (3) 実施期間

令和6年(2024年)3月7日から3月29日まで

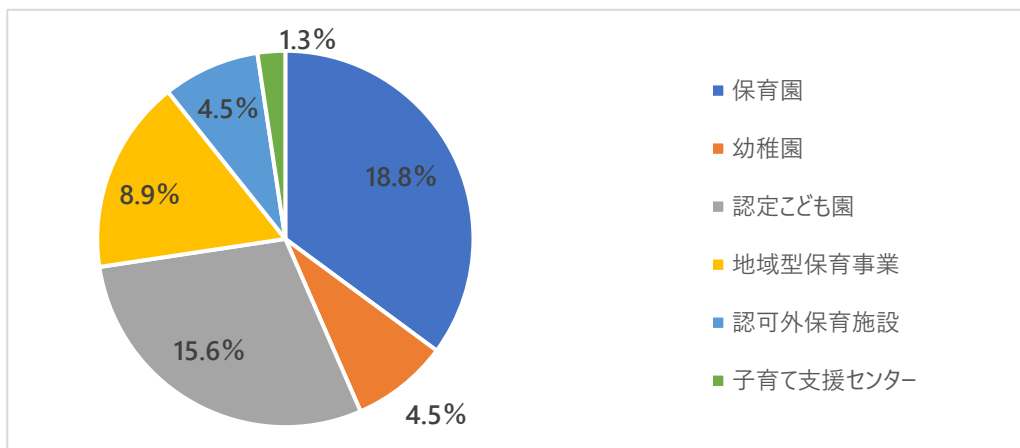
### (4) 実施方法

熊本市アンケートシステムで回答。

### (5) 回収率

施設	配布数	回答数	回収率
保育園	93	59	63.4%
幼稚園	24	14	58.3%
認定こども園	95	49	51.6%
地域型保育事業	55	28	50.9%
認可外保育施設	27	14	51.9%
支援センター	20	4	20.0%
合計	314	132	42.0%

### (6) 回答属性

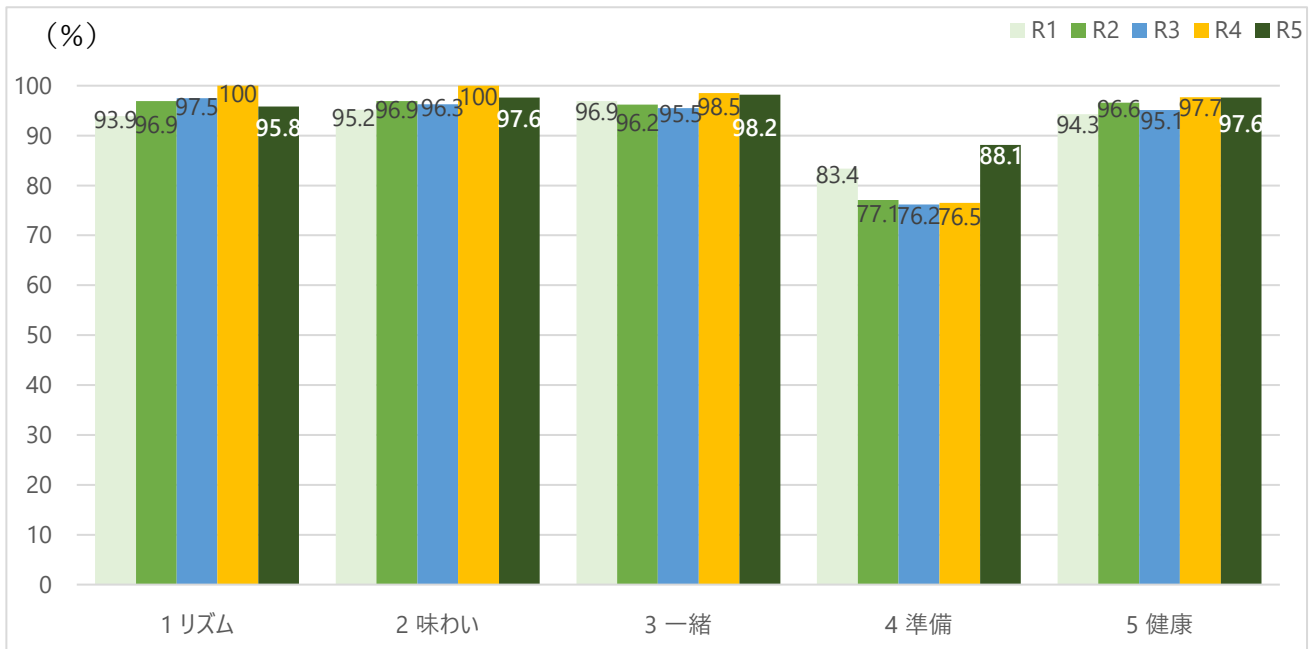


### 3 調査結果

#### (1) 「楽しく食べるこどもに」に成長していくための、「具体的な5つの目標」の取組状況

- ① 食事のリズムがもてる ② 食事を味わって食べる ③ 一緒に食べたい人がいる  
④ 食事づくりや準備にかかわる ⑤ 食生活や健康に主体的にかかわる

- ・ 「①食事のリズムがもてる」の取組は、家庭での食育も含めた、規則的な生活リズムを整えるため「はやね・はやおき・朝ごはんカード」の取組等を通して、食事のリズムを持つ取組が実施されたものと考えられる。
- ・ 「②食事を味わって食べる」の取組は 97.6%実施することができた。コロナ禍で「共食」の指導が難しい反面、味わって食べるという指導ができたものと思われる。
- ・ 「食事づくりや準備にかかわる」の取組は、新型コロナウイルス感染症が 5 類に移行したこともあり、給食当番やクッキング等の食育の取組が行われた結果と思われる。



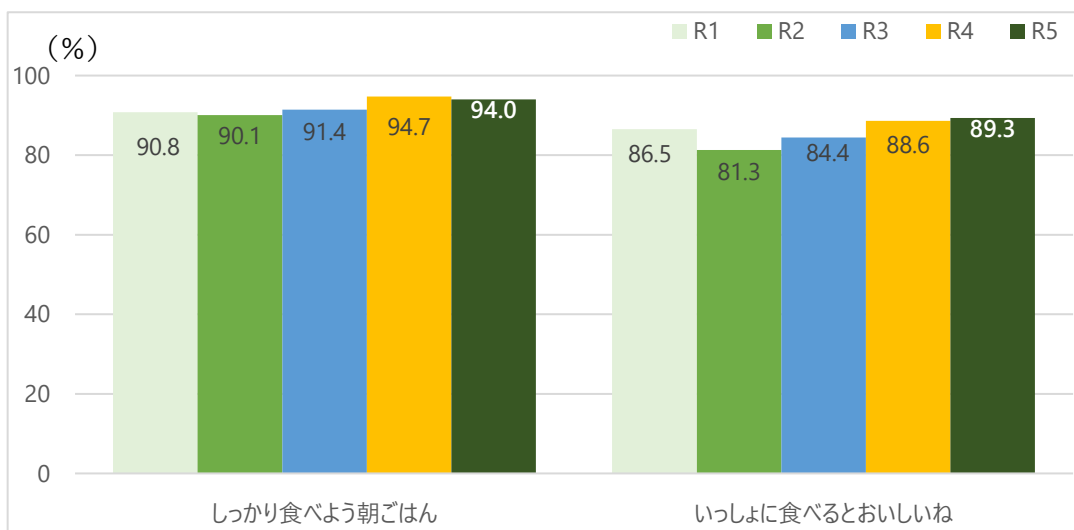
#### (2) 活動テーマの取組状況

##### テーマ1「しっかり食べよう朝ごはん(早寝・早起き・朝ごはん)」の啓発状況

- ・ 9割の施設で取り組まれており、活動の定着がみられた。

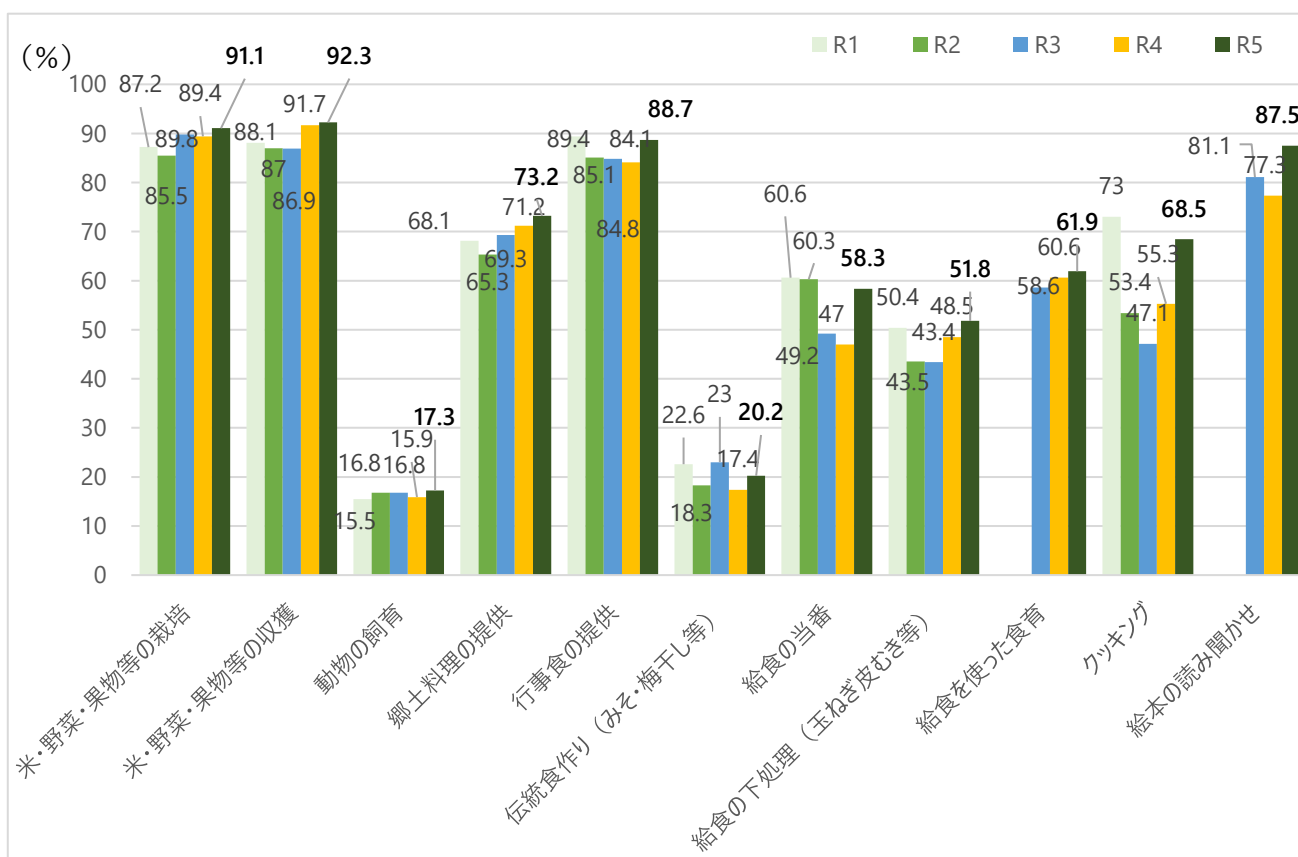
##### テーマ2「いっしょに食べるとおいしいね(共食のすすめ)」の啓発状況

- ・ 共食については、新型コロナウイルス感染症発生直後は、81.3%であったが、コロナ感染対策を行いつつも工夫して実施する施設が増加していたものと思われる。



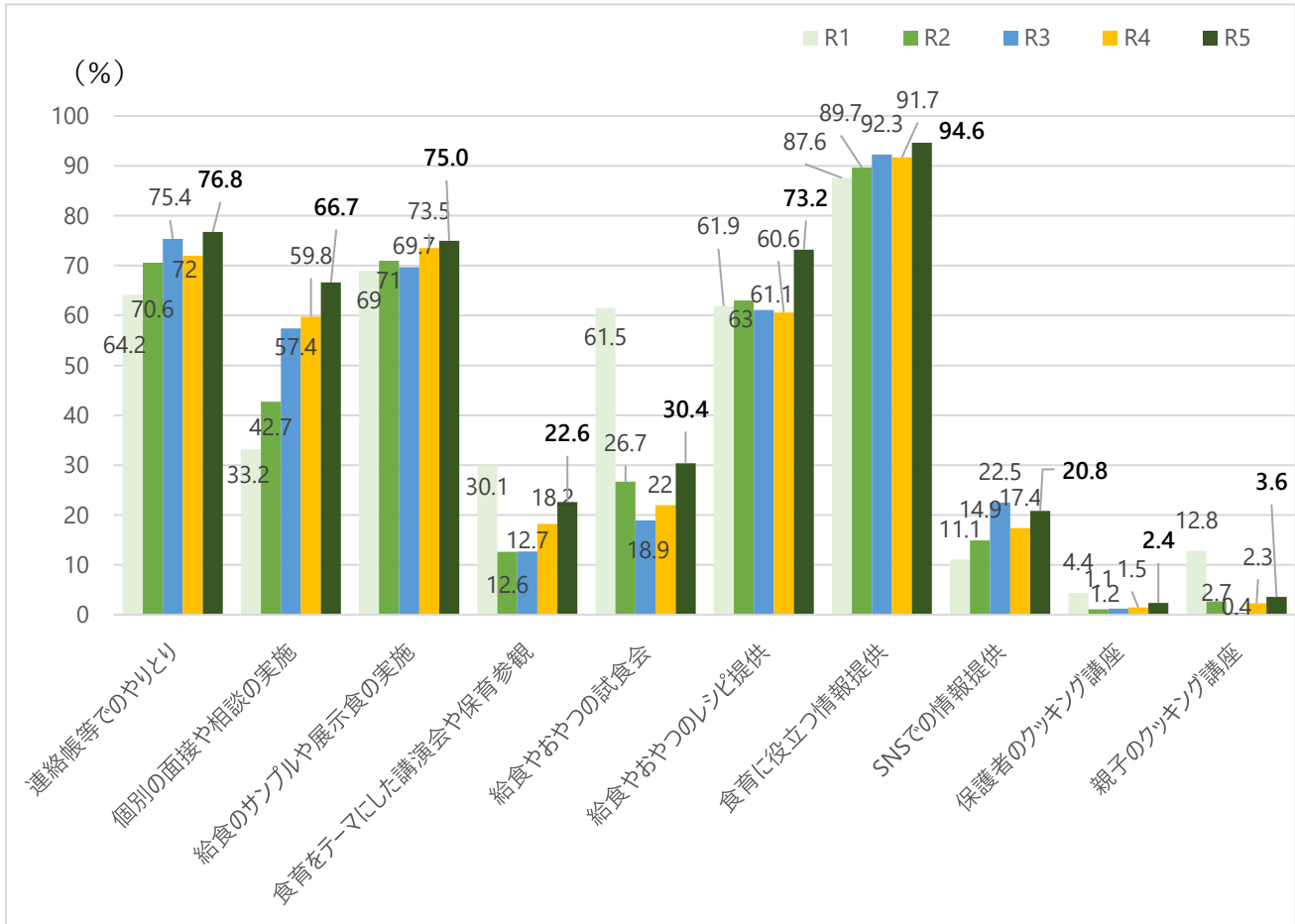
### (3) こどもへの食育活動で実施しているもの

- ・ こどもへの食育で実施率の高いものは、令和4年度と同様、①米・野菜・果物の収穫、②米・野菜・果物の栽培、③行事食の提供の順であった
- ・ すべての取組にて、令和4年度よりも増加していた。
- ・ コロナ禍により、調理活動を伴う食育について低下がみられていたが、「給食の下処理」「クッキング」については、令和3年度以降、増加している。

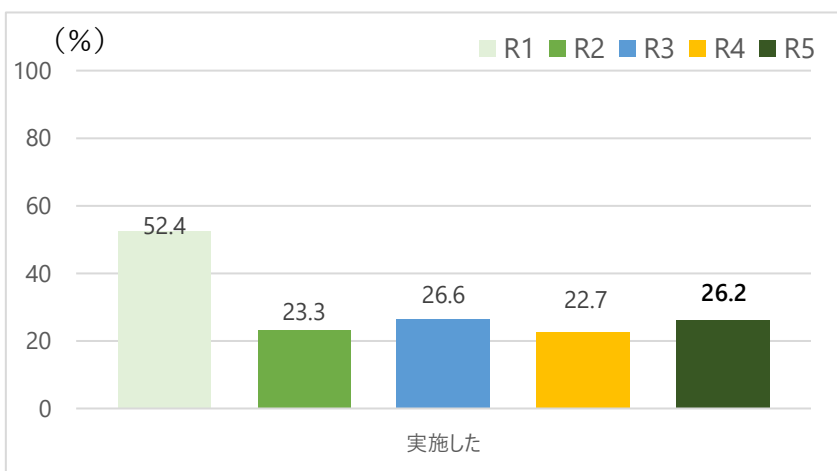


#### (4) 食を通した保護者への支援として実施しているもの

- ・ 保護者への支援として実施率の高いものは、①お便り等での食育情報提供、②連絡帳等でのやりとり、③給食のサンプル展示、の順であった。
- ・ 保護者参加の、「講演会や保育参観」、「給食やおやつを試食会」、「クッキング講座」等は令和元年度の水準には達しないものの、昨年度より増加しておりコロナ前の活動が少しずつ再開しているものと考えられる。

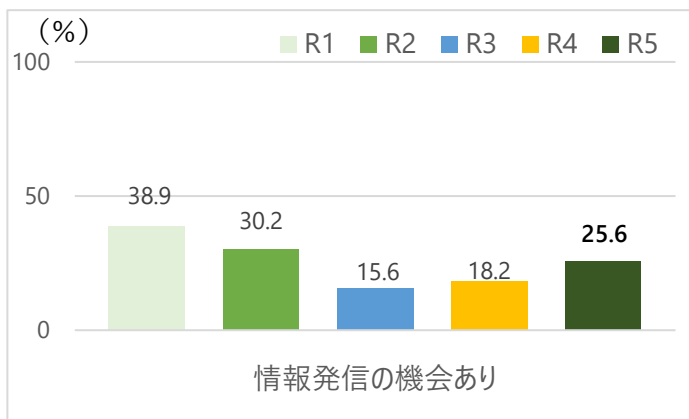


#### (5) 地域や団体等と連携した食育活動の実施の有無



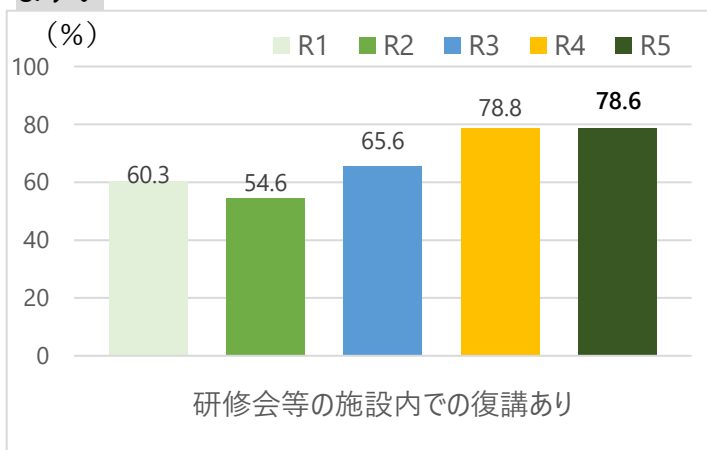
・実施率はコロナ前の半分程度になっている。令和5年度は微増した。

## (6) 地域の未就園児童とその保護者への食育の実施や情報発信の機会の有無



・コロナ感染の影響から、令和3年度は低下していたが、その後、増加している。

## (7) 食育推進ネットワークの地域研修会、全体研修会の内容について、施設内で復講を行っていますか



・年々、実施率が増加している。食育は、教育、保育と一緒に進めるものであるため、施設内での情報共有は今後も進めていただきたい。

## 4 考察

- 1 「楽しく食べる子どもに」成長していくための5つの目標については、「食事づくりや準備に関わる」以外の目標は95%以上の実施率で、概ね取組ができていた。  
新型コロナウイルス感染症も5類に移行し、休止されていた食事づくりや準備の体験活動等の再開されたことがうかがえる。
- 2 活動テーマ、「しっかり食べよう朝ごはん」の啓発については、家庭へ繰り返し伝え定着を図ることが重要である。アフターコロナにおいても、生活リズムを整えることの重要性を引き続き継続して啓発していくことが重要である。
- 3 活動テーマ、「いっしょに食べるとおいしいね(共食のすすめ)」の取組については、コロナ禍において実施の難しかった「共食」の重要性について、改めて情報提供していく必要性を感じる。
- 4 郷土料理や行事食は食文化を伝えるうえで重要であり、持続可能な食に貢献することが期待されている。現在、低下、横ばい傾向にあるのでさらなる強化をしていく必要を感じる。